第６回農業農村情報研究部会勉強会議事要旨(案)

日時：　平成１７年７月１日（金曜日）15:00-17:00
会場：　東大農学部 7 号館 A 棟 7 階セミナー室（７１７号室）
出席者（順不同）：星仰（茨城大），小野寺晃宏（ARIC），三谷歩（パスコ）,吉迫　宏（農工研），山田康晴（農工研），大木良幸（盟和商事），廣住豊一（三重大），谷口健司（東大・工），藤井秀幸（東大・工），小阪昭久（パスコ），杉山武裕（東大），関勝寿（東大），和田満（松下電工），溝口　勝（東大），沖　一雄（東大），清水　庸（東大）

１．報告事項

・前回議事録が承認された。
・農業土木学会大会において，当部会のセッションが開催されることが再度，紹介された。
　8 月 25 日（9 時～10 時 30 分）
　研究部会の企画セッション「農業土木における農業農村情報」

２．勉強会

(1)　農業農村情報社会基盤システム Agri g-contents（農業工学研究所　山田康晴　氏）
・経済産業省の g-contents 事業の農業・農村版である Agri g-contents 事業の構想について紹介された。g-contents に関する URL：http://www.nihon-kankou.or.jp/gis/news/g-contents.pdf
・リモートセンシング，GIS，インターネット社会における日本の整備・技術水準，国内外の今後の衛星打ち上げ予定についての紹介があった。
・農水省内で整備中の GIS 事業について説明があり，それらの事業が連携していないこと，また農業・農村分野における GIS 情報の総合的整備については，産業育成に短期的に直結しないことから農水省として予算がつけにくく，整備が進みにくいのだろうとの指摘があった。
・安全で安心な食品を生産現場から流通経路を通して食卓に運ぶためにも、食品についても他の商品と同じ土俵で情報の標準化をはかる必要があるとの意見があった。
・本研究部会としては、農水省内の縦割り的な農業情報の扱いをできるだけ排除できるように、研究の立場から農業農村情報のあるべき姿を示すべきであるとの指摘があった。

(2)　センサとネットワーク技術を利用した屋外センシングシステム「フィールドサーバ」の開発（松下電工株式会社　和田満　氏）
・松下電工にて製作中のフィールドサーバについて，使用事例（大阪府の市民農園）を含めて紹介された。
・フィールドサーバで取得した情報は,「メッシュ型ネットワーク」により通信可能である
・無線 LAN が整備されていない地域では，フィールドサーバ自体にメモリを搭載することによ

りデータの保存を可能にする，また ADSL や ISDN 回線を使用してデータ通信が可能であることが紹介された。
・フィールドサーバの販売に向けて，追加的なセンサ接続を可能にするなどの研究者向けの商品開発と，一般用の商品開発を分けて考える必要性について報告された。
・耐久性を考慮した開発について要望が出された

３）Information
・盟和商事から販売予定の新しい土壌水分計について紹介された。発売は来年を予定している。
・農業土木ポータルサイトについて，ほぼ完成していることが報告された。

３．次回会合

平成 17 年８月 25 日の当部会のセッションを次回の勉強会とし、その後は 9 月中旬以降の予定。今後の勉強会の内容としては,「海外の農業情報の事例紹介，農業系コンサルタントによる溜め池データベース活用事例」など。他に勉強会でとりあげたい話題がある場合には事務局に連絡。

以上